

子ども	Early Childhood Longitudinal Study, birth cohort 2001-2002 [ICPSR 04261] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04261.xml	早期子ども期における発達、健康、早期保育・教育についての全国的な情報が欠けている。調査は、子どもの早期の経験と後の学業成績等の関連性についての意識を高めることを目的とする。	ECLS-B 全ての波：9ヶ月、2年、4年、幼稚園と1年生 親：自身、家族、子どもについて、父親は、子どもの生活の中での役割。子ども：2歳、4歳の時には観察、評価用の活動に参加。保育と早期教育施設：教育に携わる人に、経験やトレーニングの状況、学習環境を回答。 幼稚園、1年生：先生や学校が、子どもの早期教育環境や学校、教室についての状況を回答。子ども、親、保育従事者、教員、学校管理者が、家、保育所、学校などの子どもの認知的、社会的、心理的、身体的発達についての情報を回答。 ECLS-B・9ヶ月：自宅子どもを観察、主たる保育者が回答。子どもの身長、体重、腕周りの測定を含む。父親は、自記式の調査票を記入。自宅観察は、親子のビデオ録画を含む。National Center for Health Statistics から、妊娠中ケアや分娩に関する情報を引き出す。 ECLS-B・2歳、4歳：自宅子どもを評価し、主たる保育者が回答。父親は、自記式の調査票を記入。自宅観察は、親子のビデオ録画を含む。保育者も調査があり、一部の保育所では、観察が行われた。 ECLS-B・幼稚園・1年生：子どもの評価と親、先生、学校管理者の調査。	2001年に生まれた子どもの代表的サンプル10600人。アジアパシフィック系、ネイティブアメリカン、中国系、双子、低体重児(2500未満)、超低体重児(1500未満)をオーバーサンプル。 * 出生コホートのサンプル:2001年に生まれた13500人のサンプル。アジアパシフィック系、ネイティブアメリカン、中国系、双子、低体重児(2500未満)、超低体重児(1500未満)をオーバーサンプル。 出生証明を利用。全国保健統計センターに依頼し、サンプルした。	
3	D 「早期子ども期における追跡調査、出生児調査」 全米／9ヶ月／2年／4年／1年生	4歳の調査では1998-99のECLS-Kの幼稚園一年生調査と同じものを使用。 (United States Department of Education, National Center for Education Statistics, United States Department of Education, National Center for Education Statistics)			
1					
低収入	Early Head Start Research and Evaluation (ds97) 1994年	乳幼児のいる家庭へのサービスを特別に推奨するヘッドスタートプログラムが1994年に再度導入されたことを受けて、このプログラムの及ぼす影響の測定をする。	プログラム評価は17の場所で行なわれ、各所で同数の参加家族および比較対照家族が選ばれた。研究は5つの主要部分に分かれる:1) 乳幼児をかかえる低収入家庭のためのサービスのニーズを検討する「実施研究」では、プログラム実施の評価、良質のプログラムにするための方法、コミュニティを変えするためにプログラムができること、場所による違いについて指摘し検討	参加者は3000組の低収入で貧しい家族(子ども、母親および何人かの父親)。アフリカ系アメリカ人34%、Latino(a)24%、白人37%、その他の民族5%。子どもたちは登録時に生後0-12か月。母親は平均2.3歳だったが、三分の一以上の母親は18歳	3000組の家族(子ども、母親および何人かの父親) *項目: プログラムによつての 違い、サービスの質が よくする道、乳幼児が いる低収入ファミリー
3					
2	「早期ヘッドスタート：研究と評価」 ヘッドスタートプログラム17カ所の家族／6.15.24ヶ月				

<p>る家庭</p>	<p>ログラムに参加していない 1500 家庭を用いた、プログラム評価研究。 Administration for Children and Families</p>	<p>する。 2) 「早期ヘッドスタートプログラム」のこども、親、家族への効果を深く分析する、「インパクト評価」。プログラムスタッフやコミュニティへの成果も評価。 3) 「早期ヘッドスタートプログラム」で、皆により望まれる効果をあげるための方法を探る、研究者による地域調査 4) 福祉改革、父親、保育および障害を持つこどもなど、政策とすべき問題に関する情報の必要に対応する「政策研究」 5) 連続的なプログラム改良のためのフォーマット：研究プログラムのサイトへのきこまかな訪問、プログラムに関する書類、親へのサービスのフォロアアップインタビュー、保育観察、スタッフ調査、親の報告書、子供の直接的な観察、訓練された観察者による観察、ビデオ録画された親子のインタラクション(問題解決と自由遊びの状況での)のコード化、などの複合的データ収集方法が行なわれた。*</p>	<p>以下。こどもが 14、24 および 36 か月の時、こどものアセスメントおよび親とインタビュールが行なわれた。比較グループの家族への情報「早期ヘッドスタート」に加わっている家族のものと比較できることが確かめられた。それから、親とこどもは、プログラムに入ってから 6、15 および 24 か月にもアセスメントされた。こどもと家族のために働く「早期ヘッドスタートプログラム」のディレクターおよび重要なスタッフもインタビューを受けた。</p>	<p>のサービス・ニーズおよびサービスの利用、プログラムがコミュニティの変化に寄与するもの、こどもと家族にもたらされた結果、ある特性を持った家族に変化をもたらし効果、プログラムの導入された方によるインパクトの差異、専門の訓練、持続性、スタッフの健康、家族とサービスプロバイダーの間の関係性の構築、協力したサービスのネットワーク作り、定収入家庭にも利用可能な保育のアレンジメント(研究期間中を通じた)、こどもの環境と保護者の間の関係、こどもの社会感情的機能、こどもの認知と言語の発育、育児と家庭環境、親の特性、父親と他の大人の関係。</p>	<p>1987年データは347カ ップル。1988年264カ ップル。1989年252カ ップル。</p>
<p>結婚関係 3</p>	<p>Early Years of Marriage Study (ds1018) 1986-1989年 「結婚初期の調査」 ミシガン州ウエイン郡/35歳以下カップル/4年間・4回</p>	<p>1986年に開始、4年間の追跡調査。新婚時代における結婚生活の安定性に関連する要因を調べる。</p>	<p>結婚前の社会的地位、家族の背景、結婚に関する認識、意識、カップルの相互作用(受け止め方と実際)、ストレスおよび社会ネットワーク、結婚生活に対する感じ方。 1年目：ふたりの関係の始まりから現在に至るまでの経歴、結婚生活でのルールに対するそれぞれの意識の議論。2年目：個別インタビュー。3年目：個別インタビューと2回目のカップルインタビュー。 4年目：個別電話インタビュー。</p>	<p>対象はミシガン州ウエイン郡在住で結婚時に35歳以下。主サンプルは373カップル(アフリカ系アメリカ人199カップル、白人アメリカ人174カップル)。比較対照グループは、59カップル(白人アメリカ人38カップル、アフリカ系アメリカ人21カップル)。</p>	<p>1987年データは347カ ップル。1988年264カ ップル。1989年252カ ップル。</p>

若者進学就業	<p>Education Longitudinal Study of 2002 [ICPSR 未登録] http://nces.ed.gov/surveys/eis2002/index.asp</p> <p>2002年教育に関する縦断調査 全米/10年生/2年後/4年後/継続中</p>	<p>2002年に10年生である人を、その後、高校卒、その後の教育や仕事の世界に進む移行をモニターする。</p> <p>調査の目的と用途: 家庭環境の重要性、親の子どもに対する達成期待、様々なカリキュラムや特別プログラムの影響、高校の違いによる影響、高校教育の効率は学校の大きさ、組織、雰囲気、エトス、カリキュラム、学業的なこと、他の特徴によってどう異なるかを把握する。教授法やカリキュラム内容やその範囲が、教育的な成長と達成をどう影響するかを分析。</p>	<p>2002年: 調査のサンプルの学生を、高校卒業後受けた教育や労働市場での経験について調査。教育を続ける人については、高校での経験(キャリア)がその後の教育機関へのアクセス、学校やプログラムの選び方、ドロップアウトするかどうか、達成後の就職や大人の役割への移行。就職する人については、高校がどの程度労働市場の準備を可能としているかなど。</p> <p>・読解と数学のテスト、生徒と親1人、生徒の英語と数学の先生が調査。各学校の校長あるいは管理部長が学校についての調査票を記入。調査員が、学校の設備や環境についての質問票を記入。</p> <p>2004年1回目追跡: 退学していた生徒もあり。生徒調査票、退学生徒調査票、テスト、学校管理者調査票が実施。2004年の高校成績、履修、成績、活動記録を9年生から12年生について。</p> <p>2006年2回目追跡: 高校卒業後のフォローアップは、CATIによって実施する予定。その後も回数等は未定だが、追跡調査を行う予定。</p>	<p>2002 春学期の10年生。無作為で学校が選ばれ、各校から無作為で生徒を抽出。750校(学校、教員、広報、調査員チェックも750)の15000人の生徒とその親。およそ10000の教員。私立学校の割合が少ないので、比較可能とするため、オーバーサンプル。アフリカ系アメリカ人、アジア人、ヒスパニックと白人を比較可能とするため、アジア系もオーバーサンプル。</p>	<p>2002年時点で10年生だったサンプルに、さらに2004年の12年生で2002年春にはアメリカの10年生ではなかった者からも、サンプルし、この調査が2004年時点でのアメリカの12年生を代表するようにする。</p>
女性と職場の異動	<p>Effect of Job Transfer on American Women (ds600) 1977-1979年 「転職がアメリカ人女性に与える影響」 全米/従業員/2年間・2回</p>	<p>なぜ、就労者とその家族のうち、移動したいと思う者とうででない者がいるのか。移動を容易にするには困難にする条件は何なのかなど、移動可能ライフスタイルの影響を検討する。</p>	<p>第1波: 就労者の配偶者(妻)およびこども(記入は親による)のための別調査票あり。両波の質問票: 属性、移動と仕事に対する態度と満足度について、身体的症状のチェックリスト、ストレスおよび自尊心ケール。配偶者の質問票(就労者と類似)は、家族に関しての補足的事項、夫の仕事の家族への影響、社会的ネットワーク。こどもの質問票: 身体的、行動的、学業的、社会的、感情的分野の項目を評価。</p> <p>第2波: 転職に関係する追加項目あり</p>	<p>従業員再配置会議メンバーの10社から3~5年間に転職した従業員の名前が提供された。これらの会社はアメリカの会社をおおまかに代表している。およそ3,000人の名簿から、10の会社の従業員が任意に選ばれ、研究への参加を依頼。</p> <p>1977年秋に、500組の家族に質問票を郵送、348家族(70%)が回答。</p> <p>1979年秋に再度コンタクト。</p>	<p>500組の家族に質問票郵送、348家族(70%)が回答。第2波は、第1波に回答した家族の80%が回答。</p>

3	結婚関係	Effect of Parenthood on Marriage (ds220) 「子育てが結婚生活に与える影響」	第1子の誕生が若いカップルの結婚生活に及ぼす影響を検討。第1子の親と、子どものいないカップルと、2人目の子どもが生まれようとしているカップルとを比較。結婚生活の満足度が親になることの結果変化するといふ、役割理論仮説を検証。	子どもが生まれる前後の親としての期待、出産と育児に関連しての、夫婦間の関係の変化について。 夫と妻は類似の質問票に、妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後の3つの時点で回答。	ミンガン州フリントの労働者階級カップル、ニューヨーク州イサカの学生および中高生階級カップル、ニューヨーク市の上流階級および労働者階級カップル。	1波：妻 624 人夫 577 人。 2波：妻 499 人夫 486 人。 3波：夫 465 人妻 457 人。
6	子ども	ミンガン、ニューヨーク／妊娠5か月、誕生5週間後、誕生5ヶ月後／3回	低収入の母親と彼女たちの仕事についての研究。就労が家庭と個人生活に及ぼす影響。どのように、現在の家庭構成が就労の障壁になっているかなど。	第1波：基礎的な家族および属性情報、職歴、育児と保育所に対する態度、満足感、および願望。宗教、仕事探し活動、健康、支援システムおよび生活保護の履歴。簡易な第3波質問票が1971年と1972年に回答者のサブサンプルに郵送された。 内容は、夫の背景、家事を行なう者としての自己評価、夫の仕事、役割矛盾など。	サンプルは、現在と過去(6ヶ月から3年)のニューヨーク州福祉リストから取り出された。 第1波(1969-1970)で、十代の子どもが住んでいる小中都市在住の女性がインタビュール。	完全なファイル(3波すべて)は53人、部分的な回答は993人。
3	低収入	Effect of the Welfare Woman's Working on Her Family (ds865)	1969-1972年			
7	福祉	「生活保護を受けている女性の就労が家庭に及ぼす影響」	ニューヨーク州中小都市／10代の子どものいる女性／2年後・3回			
3	高齢化	English Longitudinal Study of Ageing (ELSA) 2002年- http://www.esds.ac.uk/longitudinal/access/eisa/	高齢化に伴う経済的、社会的、心理的、身体的な事項を理解するためのイギリス最初の調査。50歳以上の人を二年おきに追跡する。長期化する退職後の生活と高齢化する人口において、イギリスの医療保険、年金制度が人々のニーズに応える事ができるようにするための政策策定のため。 アメリカの Health and Retirement Study をモデルとした。	世帯の属性に関する項目、個人の人口学的属性の項目、健康、社会参加、仕事と年金、収入や財産、住宅、認知的機能、期待、心身の健康、身体機能に関する測定。世帯に関する質問は、各世帯の1人が回答。個人については、世帯から該当する人全員が回答。	1998, 1999, 2001年の Health Survey for England 調査の多段階無作為抽出された世帯のうち、50歳以上の人がおり、再度コンタクトされることとに同意した世帯がサンプル。	目標 18813 人 (17768 人のサンプルと年齢の若いパートナー1045 人)。回収は、12100 員 (11392 人のサンプルと 72 人の新しいパートナーと 636 人の若いパートナー)
3	生活	「イギリスの高齢化に関する追跡調査」				
8	イギリス					

3	精神疾患	Epidemiologic Catchment Area Study, 1980-1985: [United States] [ICPSR 6153] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06153.xml	Institute for Fiscal Studies (IFS). 5年間は政府のいくつかの省庁から資金の半分の援助あり。残りの半分はアメリカのNational Institute on Agingから得られている。	2波、1年間隔、中間に電話調査。NIMHのDIS診断面接質問票III、を使いDSMIIIに従って診断を分類した。その状況、鬱、鬱の繰り返し、アルコールや薬物濫用や依存症、摂食障害、非社会的人格、恐怖症、パニック障害など。認知障害なども。	地域精神健康センターの指定地域 (New Haven, Connecticut, Baltimore, Maryland, St. Louis, Missouri, Durham, North Carolina, and Los Angeles, California)に住む18歳以上。各地域から3000人の住民と施設から500人を選んだ。回答者数20,861人。	最終的には3,842人			
9	疫学	「疫学的指定地域における研究」 いくつかの地域/18歳以上/5年間・2回	(United States Department of Health and Human Services, National Institute of Mental Health)						
4	生活ヨ	European Household Panel Survey http://www.iser.essex.ac.uk/epag/dataset.php#echp	European Community Household Panel によって、1994年に開始された。12カ国で並行してパネル調査が行われ、毎年追跡をしている。3カ国が後に追加。直接の比較を可能とするデータが存在する。ベルギー、デンマーク、ドイツ、ギリシャ、スペイン、フランス、アイルランド、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、オーストリア、ポルトガル、フィンランド、イギリス。	共通項目の例： 世帯についての情報、住居、家計についての様々な事項、食事、所有物、社会福祉や生活保護についての質問、税金の詳細。 個人：仕事、教育、資格、職種、職場での言語、仕事の満足感、労働時間など、ケアを必要とする人、ケアの仕事への影響、近所、友人、家族との接触、収入についての詳細、健康状態、子ども、余暇、満足感など。	これに先駆け、ヨーロッパのいくつかの国ではすでにパネル調査が実施されていた。 例：German Socio-Economic Panel; the Netherlands, the Socio-Economic Panel; Panel Study on Belgian Households; Panel Study of Economic Life in Luxembourg; British Household Panel Survey				
4	0	「ヨーロッパ世帯パネル調査」							
4	1	人生の転換	Experience-Induced Affective Development in Children and Adults (ds529) 「こどもと成人における、経験	4つのTAT、基礎的な事項の質問票、インタビュー、およびFeffer Role-taking Task, Kelly Role Repertory grid, Who Am I?その他のいくつかのパーソナリティ・インベントリに回答。	学校、仕事、結婚および親になるという大きな生活の変化を代表して選ばれた。3年にわたって2波で行なわれた。	フォローアップの回答率は高い。新しい親のサンプルは他の研究者によってさらに2回フ			

期	によって導かれる愛情の発達」 幼児・5-10年生、大学生、婚 約中、新婚、新しい親／3年 間・2回	た、転換期の経験を、子ども と成人両方について調査。	生活の変化を経験しようとしている人、 ごく最近生活の変化を経験した人、最近生 活の変化を経験し、ある程度それに適応し た人への調査。	64人の幼児(幼稚園、1年 生、2年生)、342人の児童(5 年から10年生)、138人の大 学生、36人の婚約中の人、 60人の新婚の人、40人のも うすぐ子どもが生まれる人、 41人の新しい親。	オローアアップされた (Chester, A640)。
若 者 ・ キ ャ リ ア	Experiences and Plans of Young Adults, 1973-1978 [United States] [ICPSR 8074] http://webapp.icpsr.umich.edu/ cocoon/ICPSR-STUDY/08074. xml 「若者の経験とプランに関す る調査」	1973年にアメリカ大学入試 プログラム American College Testing Program.により調査さ えた高校3年生(4年制)の追 跡調査。ある職業やキャリアア プランニング関連の活動につい てどのくらい情報を持っている か。	2つの追跡調査：現在の生活状況、仕事、 教育、軍隊経験、高校以来の活動、人口学 的属性、将来の計画。	アメリカ在住の若者。 1976年に第1回の追跡調査。 2回目は、1987-79年に。 Institute for Demographic and Economic Studiesによ って 自記式調査、郵送回収	第1波は、9296人の高 校3年生。2波 5293 人、3波 3615人。
若 者 ・ キ ャ リ ア	全米／高校3年生／3年後 Explorations in Equality of Opportunity, 1955-1970 [United States] [ICPSR 7671] http://webapp.icpsr.umich.edu/ cocoon/ICPSR-STUDY/07671. xml 「機会の平等についての調査」	1970年は、個人の階層移動の 決定要因とその結果を調べる。 (University of North Carolina's Institute for Research in Social Science)	個人的な情報と活動、高校・大学について (動機、退学理由、大学にいった友人の 数)、就労経験(職歴や結婚について(人種、 仕事意識)、家族の教育、収入や財産)、様々な 宗教、家族の教育、収入や財産)、様々な 意識(故郷、現在の居住地、高校、大学に ついて)、女性には避妊、妊娠、子ども数、 女性の役割や仕事について。	1955年に高校2年生を無作 為抽出し、1970年に追跡調 査 1955年には42校の4151人 の高校2年生に対し、教育テ スト協会により、適性やキャ リア目標についての調査を した。	1970年の回答者 2077 人 年齢は全国サンプルと 一致。白人以外の多い 機関に通っている人が 除外、私立学校が除外、 学力の低い人、退学し た人が少ない、大都市 の人が少ない。
大 学 生 女 性 ・ 専 攻	全米／高校2年／15年後 Factors Influencing Concentration Choice Among Undergraduates (ds530) 1978-1983年 「学部生の専門分野選択に影 響を及ぼす要因」	4年間の追跡調査。 なぜ学部女子学生のうちで、 科学を専攻しようと思っ て入学してきたのにそれを決定前 にあきらめてしまう者がいる のか。 女子学生が科学を専攻する という選択を導くと思われる	入学に先立った夏と、在学中1年に1度、 これらの学生は個人的背景、大学での経 験、専攻の選択、キャリアプランについて の質問票に記入した。1983年卒業予定学 年の参加者は新1年生時4つのTATラス ト (picture cues) に回答。さらに、女性 20人男性20人のサブサンプルは、専攻の 選択、キャリアプラン、学術的な経験を深	1978と1979年夏、それぞ れ、ある大きな有名大学の新 入生の女性150人男性150 人が選択。 1982年卒業の学年からは数 学SATスコアが700点以上 のものが選ばれた。1983年	女性 150人 男性 150人

	大学生／入学前／在学中／4年間・2回	要因についても検討。	く調査するためにインタビューされた。	卒業の学年からは、大学志願書で、科学または数学を専攻する意志を示していた場合に選ばれた。	
4	Family Life Project: A Longitudinal Study of Adoption (ds1610) 1969-1989年 「家族生活プロジェクト: 養子の追跡研究」 シカゴ／20年間・5回	20年の追跡研究。1969-1970年に開始され、養子のこどもへの影響と、異人種の親、1人親・2人親の養親への養子の場合と、生物学的家族の場合の家族の発達について検討。 (Chicago Child Care Society)	こども・親・家族のインタビュアー、こどもによる心理テスト記入、人種とジェンダー・アイデンティティについての質問票、知能、社会的成熟度など。 1969-1972に開始。 II 1973-1976; III 1977-1981; IV 1982-1987; V 1987-1989.	2つのシカゴの団体によって、1人親、異人種の親、および従来の養子縁組から選ばれた。5つのグループを含む: 1人親での養子縁組; 白人の親が他の人種のこどもを養子縁組; アフリカ系アメリカ人のこどもを養子にするアフリカ系アメリカ人の親; 1人の親と実子; 両親と実子がそろったアフリカ系アメリカ人の家族。 養子を受け入れた家庭の75パーセントは中の上か、中流階級。25%は労働者階級。	研究サンプル: アフリカ系アメリカ人のこどもも158名(0-2歳、男女およそ同数)
5					
4	Family Lifestyles Project (ds642) 1973-1986年 「家族のライフスタイルプロジェクト」 4形態の家族／18-35歳／14年間・15回	オルタナティブな家庭環境での、異なった態度、価値観、子育て方法が、こどもの健康と身体的発達、認知機能、小学校教育での成績、そして社会的・感情的発達への影響を検討。 14年の追跡調査。	価値観、家族の構成および安定性、妊娠に対する態度、子供に対する望み、社会的サポート、育児実践、従来のファミリーバリューとカウンターカルチャーへのコミットメント、養育行動、家の物理的な様相、子供の健康、こどもの学校の成績、こどもの認知スコア、家族SESなど。 子どもは、出生前から12歳になるまでに15の時点で調査。参加者(通常母親)は、1973-1980年の間毎年および1985-1986年にフォローアップ。	4つの異なったかたちの家族(シングルマザーの家族、コミュニティ/グループ、未婚/社会的契約家族および両親がそろった核家族)。各グループ約50家族、計209人の子供(47%女 53%男)、208人の親(1人以外は母親)。第1波で141人の父親もインタビュアー。 インタビュー、質問紙、構造化・半構造化した心理的テストおよび自然観察などの多様な手法が活用。	参加者は白人、主に中の上の中流階級(60%)労働者階級(30%)および貧困階級(10%)
6					
4	Family Relationships Study (ds606) 1979-1989年	個人の成熟と関係性の成熟の関連を調べるために、若年成人とその親との関係の質を調	見解の違いがどう扱われるか、どのように世話されているか、どのように助言が与えられ受け取られているかを調査する詳	縦断と横断の混合で1979年開始。1980年1981年に3つの集団で継続。22歳・1957	合計432人の参加者のうち1度インタビュアーを受けたもの127人、2

7	保 「家族関係研究」 20代/10年間・3回	細なインタビュー。育児実践および親の意識についての質問、個々の心理的発達学の測定、個々の適応および心理的機能の測定。さらに、31カプルのサブサンプルで、親密さの認識がどう変わっていかかを調査。	年生まれ、24歳・1955年生まれ、26歳。1953年生まれ。72人の新しい参加者からなる4番めのグループ(29歳・1951年生)を第2年に追加。このグループを1981年にも調査。	度インタビューを受け たもの137人、また3 回インタビューを受け たもの168人。 4つの集団の参加者 のうちの80人が10年 後29-25歳でフォロー アップ。
4	Family Socialization Project (ds23) 1968-1978年 「家族の社会化についてのプロジェクト」 4歳の子どもとその親/12年間・3回	子どもたちと思春期の青少年たちの能力と発育の個人の相違に関する家族の決定要因について探る。 家族の社会化の実践、親の態度、就学前、子ども初期、思春期初期の子ども的人生における3つの重要なステージにおける発達の要因を検討。	白人中流家庭の親および子ども。12年にわたって3波で集められた。 1968年：134人の4歳の子どもおよびその親がインタビュー。 1972年：最初の104人の子どもとその親。60人の9歳の子ども別の集団およびその親が追加。 1978年：最初の89人の子どもおよび第2の集団の50人の子ども。 すべての波で、各子どもの少なくとも1人の親はインタビュー。3波以降20代半ばになつていた参加者へは電話インタビュー。	1968年、134人 1972年、104+60人 1978年、89人+50人。
8				
4	Family Transformations (ds715) 「家族の変動」	離婚のプロセスにある家族の間の相違、その意味と、個々の家族にとつての経験を検討する。	ボストン近隣の5郡において、公的離婚訴訟を求めている人々の中から求められた。 物理的な別居が過去6ヶ月に起こつた家族、少なくとも6歳から12歳の子どもが1人いること。 1年後の1982年フォローアップ。	160組の家族が、最初に参加、2波142組。 127人の母親(2波110人)、57人の父親(2波42人)、136人の子ども(2波102人)。
9				

			<p>日のルーチン、家族メンバー、親の別居についての気持ちについてたずねられた。その後、いくつかの標準化された質問票も行なわれた。</p> <p>親はパケットを渡され、子どもの教師(彼らは Achenbach 子ども振る舞いチェックリストの教師形式を送られた)と連絡をとる許可を求めた。教師は Achenbach Child Behavior Checklist を送付された。母親と子どものサブサンプルは遊び相互作用セッションの録画のために再度訪れた。</p> <p>追跡用調査票 (MF2S-2) : インタビューの試みられた全世帯に対して使用され、調査・アンケート用紙の配布状況、対象者数、回答者確認などの情報を記録。</p> <p>MF20(家庭メンバー用) : 全パネル・サンプル世帯に使用。家庭メンバーの状況について、所在地、婚姻区分、教育、生年月日など。</p> <p>MF21(家庭登録簿) : インタビューを受けた全世帯について、現在とごく最近の家庭メンバーについての属性情報。</p> <p>MF22(女性の生活史) : パネル女性とその選択された娘および義理の娘、また新サンプル女性の調査。妊娠歴および関連する出来事、結婚、仕事、移住歴、家族背景、教育。</p> <p>MF23 (男性の生活史) : パネル女性の夫、選択された息子および義理の息子、新しいサンプル女性の夫、からデータ収集された。結婚、仕事、移住歴、教育、家族背景。</p> <p>MF24(高齢者の生活史) : 50 歳以上の選ばれた人に対しておこなわれ、結婚、子ども(どこに住んでいても)、読み書きの能力、仕事の経験、移住歴、健康および家族背景に関する質問。</p> <p>MF25 (家計) : この波でインタビューを受</p>	<p>ほとんどもどがヨーロッパ系アメリカ人で、社会階層では下から中流階級。平均は中の1は、貧困労働者層または失業中。専門職の家族もあり。</p>	<p>パネル調査回答者 1262 人。第2波では 889 人 (72%)。</p> <p>*サンプルは 4 種類: パネル、子供、新人、高齢者。</p> <p>(1) パネル・サンプル適格者は 1976 年にマレーシアの第 1 回家庭生活調査の回答者だった 1,262 人の女性。当時全員既婚で 50 歳以下。</p> <p>第 2 波では、これらの回答者のうち 889 人が女性の生活史アンケートに回答した。(適格者のうち 72%) これらの回答者の夫も、同世帯で生活している場合は、インタビューを受けた。</p> <p>(2) 子供サンプルは、調査適格者の女性の 18 歳以上の子供。マレーシア半島内に居住してい</p>
家族生活	First Malaysian Family Life Survey, 1976-1977 [ICPSR 6170]	急速な人口学的、社会経済的変化の期間における、多様な家庭行動の研究。			
マレーシア	Second Malaysian Family Life Survey: 1988 Interviews [ICPSR 9805]	—98 部(MF26EB コミュニティレベルデータ)は、MF2S-2 に選ばれた 398 の列挙ブロック、および MF2S-1 の中で使用される 52 の主要なサンプルリング・ユニットの各々から 1 つの記録を含む。(家族計画サービス、一般的な医療サービス、学校、水および衛生、住宅コスト、農業、輸送、人口、都会/田舎の区分、政府プログラムについての現在の状況)。			
5	「マレーシア第1回家庭生活調査 1976-1977年」 「マレーシア第2回家庭生活調査 1988年」				
0	マレーシア全国/50歳以下の女性と家族/11,12年後				

		<p>出来事、結婚、雇用、移住、収入、財産、家族規模と構成に関する期待、コミュニケーションの特性、時間配分、回答者その他の人々の間の、物品、援助、金銭のやりとりについて。</p> <p>パネル調査の第2波は、世帯レベルの過去および現在のマレーシア半島の女性およびその夫のデータを提供し、家族の意志決定に影響を及ぼしている社会と経済要因、生殖、結婚率、移住および死亡などの従来からの人口学的研究のトピックもカバー。</p>	<p>けたすすべての世帯からの家計のデータ収集。</p> <p>MF26, MF27: このデータ収集用のコミュニケーションレベルデータサブファイル作成のために用いられた。—97 部(MF26DIST 地区レベルデータ)は、マレーシア半島の78の地区の各々1つの記録を含んでいる。このファイルは、医療サービス(例: 病院、ヘルプセンターおよび医者の数)、家族計画サービス(例: 家族計画クリニックの数、避妊の実施)、誕生、死、出生率、小・中等学校の数、人種の割合、産業と職業の割合についての情報を提供する。(大部分は1988年のものだが、1970年にさかのぼるものもある。)**</p>	<p>るこどものうちから、任意に選択された1人とのインタビュー。</p> <p>(3) 新サンブルは、18-49歳の女性(婚姻区分にかかわらず)あるいは18歳未満の既婚の女性。</p> <p>(4) 高齢者のサンブルは50歳以上の1,357人</p>
5	<p>大学 学生 ・ 摂食障害 調査と追試 大学生/10年間</p>	<p>Colby, Ware, Zuckerman による1982年にハーバード大学のランダムサンプリングによる「大学生の過食症有病率」研究のフォローアップ。目的は1982年から92年までの、ダイエット行動と摂食障害の有病率の変化や若年成人への転換期の変化をみることに。</p>	<p>1982年の質問票と類似の質問票。属性と健康バックグラウンド、食習慣、食事、運動、摂食障害。摂食障害をはかる26の質問。</p> <p>フォローアップ質問票は、家族とキャリアについての質問とともに、ローゼンバーグ自尊心スケールを含む。</p>	<p>1991-92に、質問紙が1200人の学生のもとへ無作為抽出で送付。799通(女性564、男性235)回答。最初のサンブルの901人のうちの732人のフォローアップ。</p>
5	<p>結婚関係 「ケリーの長期研究の追跡調査」</p>	<p>パーソンナリティの特徴と結婚生活における相性を45年間の追跡すること。</p>	<p>300組のカップルが、結婚の相性や結婚のその他の側面に関する縦断調査の一部として、生理学的、心理学的調査に参加。結婚した(249組)カップルは毎年記念日に郵便で連絡を受ける。第2次世界大戦により中断される1941年まで継続。1954年に、再接触。394人の参加者に1979-1981フォローアップ。</p>	<p>当初300組のカップル。(600人)394名にフォローアップ。</p>
2	<p>カップル/45年間・初期は毎年?</p>		<p>パーソンナリティ、知能および自己見解の長期一貫性を研究。離婚したカップルの両方のメンバーにもフォローアップし、最近の配偶者に関する質問をする。</p>	

5	大学生のキャリア	Follow-up on the Internship Component of the Women and Career Options Program (ds1040) 1975-1984年 「女性とキャリア選択肢プログラム」のインターンシップ部門追跡調査	主に男性によって占められている職業に、女性が参入することを促すために、カーネギーコーポレーションによって助成された Trachtenberg の学生インターンシッププログラムデーター (1975) (A73) のフォローアップ。 主に、大学生のときにインターンシップに申し込んだ女性の、職業生活と個人生活のパランスについて検討する。	自記式質問票を記入。質問票は、Tangri の「大卒女性のキャリア発展の長期的研究」1967-1981 (A9) の、“Womens Life Paths Questionnaire”を改訂したものの、大学生時代以降の活動と経験についてのオープンエンドとクローズドエンドの質問票。項目は、教育、雇用、仕事と家庭のパランス、インターンシッププログラムの成果など。	1975年の参加者はボストンのボストン大学、ブランディス大学、ハンプシャー大学、マサチューセッツ工科大学、アマーストのマサチューセッツ大学およびマサチューセッツ大学に在籍する250人の女性。 住所がわかった160人の参加者のうち、104が回答(65%)。 ほとんどの参加者は1975年ごろ大学を卒業しており、1984年のフォローアップ時点で30歳程度であった。	250人。 追跡可能だった160人の参加者のうち、104が回答(65%)
5	労働意識	Geographic Mobility of Labor, 1962-1963 [ICPSR 7434] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-UNICAT/07434.xml	アメリカでの労働力の移動を探索。	意識、動機、家族の経済状況、移動歴、属性。	1962年8,9月、11-12月、1963年11月の3波。世帯主かその配偶者。再開発地域に住む、最近越していた人も入れた。パネルは、両方含む。18歳以上。	4612人がクロスセクション。引越しグループは3246人。
5	生活ドイ	German Socio-Economic Panel (SOEP) [ICPSR 131] 1984-2004年 http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/00131.xml	世帯構成。職種と家族歴、就業とキャリア移動、収入、健康、満足感。 (German Institute for Economic Research (DIW) in Berlin)	2000年には、子どもやティーンについての項目を充実させた。2003年には、女性の第一子の子どもの成長についてたずねた。	1984年からの追跡調査。1990年から旧東ドイツ地域、1994/95年から移民も含む。2000年にサンプル追加。サンプルFは10890人6052世帯(2002年ではそれが8427人4586世帯に。)サンプルGでは高収入世帯を無作為でとる(1224世帯、2671人)。	西1984年=5921世帯、12290人、東1990年=2179世帯、4453人。移民は1995年522世帯。2002年西3889世帯、7175人、東3466人、1818世帯
5	大学生	「ドイツ社会経済パネル調査」 Grant Study of Adult Development (ds290) 1938-1989年	男性が、人生にどう順応するかについての調査。研究者が、医学的な調査は疾病に重点を	大学2年から最上級学年まで継続。卒業後は1955年まで毎年の質問票が送付。1956年以降は2年ごとに送付。精神医学的調査	1938-1942年にアメリカの主要な大学に在学した268人の健康な男性。	268人。 20人が中絶(7%)、45人(17%)が68歳になる

6	成人の発達	「成人の発達についての研究」 主要大学の男性/大学2年生 /毎年・後隔年/68歳まで	置きすぎていると考え、将来有望と思われる男性が長年に おいて、人生をどう歩むかの 図式化の研究デザインで行な った。研究参加者の妻からも データ収集された。	(大学在学時のみ)、フォローアップ質問票、 施設記録、心理テストおよび健康診断を含 む様々な方法。参加者の社会的な経歴、知 的機能、学術的な成果、パーソナリティ評 価、心理的健康、生理学・医学的情報およ び経歴など。 身体検査が、1969年、1974年、1984 年および1989年に行なわれた。1951年、 1954年、1967年および1975年に参加者 の妻の調査。	66人は1939-1941の卒業生。 202人は、1942～1944のク ラスの7パーセントのサン プル。 すべて白人男性で社会経 済的に恵まれたグループ。成 績は、高校卒業生のトップの 5～10パーセント以内。	前に死亡。
5	若者	Harlem Longitudinal Study of Urban Black Youth, 1968 [United States] [ICPSR 121, data not available through ICPSR] http://www.radcliffe.edu/	26年間の追跡調査。 アフリカ系アメリカ人の若者 の身体的、心理的、社会的な健 康をたどる。 都市部のアフリカ系アメリカ 人思春期青少年の代表的なコ ミュニティーサンプルの、健康、 身体的、心理的、社会的側面に 関する収集。 アフリカ系アメリカ人の思 春期青少年の健康状態の変化 の方向や状況を把握する。最も 変化しやすい健康上の問題を 指摘する。アフリカ系アメリカ 人思春期青少年の間での、薬物 利用のはじまり方や頻度を調 べる。家族背景の特徴、役割獲 得、社会的影響、薬物利用につ いての社会心理的態など、の 解決に導く可能のある変数の 影響を評価する。 薬物の健康、成長、発達など への影響の及ぼし方を検討。	他の健康の事項と共に、追跡調査では薬物 使用や HIV に関する知識・意識・行動につ いて訊ねた。 1983-1984 は医療用でない薬物使用のバ ターンおよび健康への影響を強調。 1989-1990 は、HIV 関連の問題、その存在 についての知識、HIV に感染した人々に対 する態度および危険行動を含む、HIV に関 連する問題へ焦点。 最終の2波には、血液サンプルも含まれた。 MM健康(身体的、精神—身体的、情緒的、 自分への態度、希望、期待、実際の教育で の達成)、医療外の薬物使用のパターン、 HIV 関連の問題。	12-18 歳、ニューヨーク、ハ ーレムの中心地在住のアフ リカ系アメリカ人の若者の 調査。 1968-1970, 1975-1976, 1983-1984, 1989-1990, 1993-1994 年に調査。 確率抽出	1968 年：668 人 12-17 歳(男性351人女性317 人) 1994 年：347 人 35-41 歳 (ハーバード大学、ラ ドクリフ研究所のムレ イ研究センターにデー タが保存されている。)
7	健康	Harlem Longitudinal Study of Urban Black Youth (ds845) 「都市のブラックの若者：ハー レム追跡調査 ハーレム地域/12-18 歳/26 年間・5回	死別者がなくした人 の情緒と社会生活にいかにかに影 響するかについての追跡調 査。死別の悲しみからの回復	配偶者の死後およそ3週間目、8週間目、 13か月目、2～4年目にインタビュー。 死別の精神的外傷、役割への適応、対処 の方法、回復プロセスについての情報を集	配偶者が1965-1966年に死 亡した(殺人あるいは自殺は 除く)45歳以下のボストン在 住の男女。	1103名少なくとも1 度インタビューを受け た参加者は。 女性48人男性20人が
5	死別	Harvard Bereavement Study (ds636) 1965-1969年				
8						

<p>「死別に関する研究（ハーバード）」 ボストン／死別した45歳以下の男女／4年間・4回</p>	<p>を妨げるあるいは促す、社会的または心理的要因の検討</p>	<p>死の状況の詳細、本人および他の人々の反応、続いて起こった問題の管理、金銭的状況、社会生活、宗教、家庭生活および将来の計画など。健康についての質問票。</p>	<p>長期参加者のうち、24%はアフリカ系アメリカ人。58%はカトリック。</p>	<p>最初の3つのインタビュー完了。女性37人および男性14人が1969年にフォローアップインタビュー。</p>
<p>健康・生活・退職</p>	<p>アメリカの高齢者の生活についての全国調査。</p>	<p>身体的・認知的機能、退職の予定、家族構成、人口学的属性、住宅、就業状況、収入、健康保険、障害、年金プラン、職歴、意識、選好、将来の期待など。</p>	<p>1992年の基本サンプルは、1931-41年生まれの人とその配偶者。元祖HRSは69336世帯のスクリーニングに基づく。多段階クラスター確率抽出。 2つめのサンプルは、1923年以前に生まれた人。 1914-1923年生の人は、HRSと同じようなスクリーニングに基づく。1913年以前生まれの人は、メディケアの登録リストから抽出。 1998年に1924-30年生まれと1942-47年生まれを追加。1942-1947年生まれの「競争ベビー」のサンプルは、1992年のスクリーニングに基づき、1924-1930年生まれの人は、メディケア登録に基づいて抽出（セットで2033ケース。）7600世帯、12600人以上のサンプル。ヒスパニック、アフリカン系、フロリダ住民を多くサンプル。面接調査。</p>	<p>2年おきに電話で追跡。 1波 12521(81.7%), 2波 11596(89.1%) 3波 11200(86.3%) 4波 10856(84.4%) 5波 10371(81.8%)</p>
<p>5 9</p>	<p>健康状態・社会生活・行動・ネットワーク・医療サービス 健康に関わる行動と人間関係が、身体的・精神的健康状態に与える影響を調査。</p>	<p>1965年：慢性的疾患、健康、社会的関わり、心理的特徴 1974年：関係満足感、育児、運動、就業、幼児期の経験 1994年：飲酒・喫煙行動、社会活動、疾病、日常の活動（服、食事、買い物）、自</p>	<p>Alameda郡の21歳以上（結婚している場合は16歳以上）の人が住む一般世帯。 層別無作為抽出法</p>	<p>1965年 6246/6928人 1974年 4864/6246人 1994年 2729人 1995年 2569人</p>
<p>6 0</p>	<p>Health and Ways of Living Study, 1965 Panel: [Alameda County, California] [ICPSR 6688] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06688</p>	<p>健康・生活・医療</p>	<p>Alameda郡の21歳以上（結婚している場合は16歳以上）の人が住む一般世帯。 層別無作為抽出法</p>	<p>1965年 6246/6928人 1974年 4864/6246人 1994年 2729人 1995年 2569人</p>

	<p>xml Alameda County [California] Health and Ways of Living Study1965, 1974 [ICPSR6838] 1994, 1995 [ICPSR 3083] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06838 xml http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03083 xml カリフォルニア州・アラミダ郡 /21歳以上 /9年後 /29年後 /30年後</p>	<p>高校2年生と4年生がその後高等教育機関、職場へと移っていく活動を記述。 1980年から1992年について、学生の調査のみでなく、親、教員、高校の成績データ、生徒の奨学金記録、大学成績記録が含まれる。このデータは、第1波目の「高校とそれ以降」調査を含む。1972年卒業生の追跡調査と共通の項目が多い。</p>	<p>由時間の使い方、社会的、レクリエーション、宗教的、環境関連の団体での活動、自由時間の使用 1995年：自己ケア機能の変化、就業、地域活動への参加、友人家族への訪問、自由時間の使用</p>	<p>学校、学生の層化2段抽出。自記式の調査票、対面と電話調査、郵送回収調査票等を利用。 1980年春、高校1,015校の58,270人の高校生(4年生28,240人、2年生30,030人)。</p>	<p>学校 453, 学生 58270, 親 6564, 言語 11303, 教員コメント 4年 67053, 教員コメント 2年 76560 ふたごや兄弟 2718, 友人 58280</p>
6	<p>High School and Beyond, 1980: A Longitudinal Survey of Students in the United States [ICPSR 7896] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07896 xml 「高校とそれ以降の生活、1980年：アメリカの学生の追跡調査」 全米 / 高校2、4年</p>	<p>親データ：抽出された4年生と2年生から、さらに抽出し、2年生の親3367人、4年生の親3197人を調査。収入、負債、資産。高等教育の教育費の出所、親としての教育の目標、奨学金のあて、子どもの高校後の予定、結婚や出産の期待年齢、教育費の見込み、政府の奨学金制度について。世帯規模、住宅の支払い、年齢、婚姻状況、就業状況、収入、子どもにかかる費用。言語データ。英語以外の言葉の経験、現在の接触や使用状況。 教員データ：18291人の2年生と4年生の教員14103人、616の学校から。一人の学生は、1979-1980年に教えた平均4人の</p>	<p>8つのデータからなる。 学校データ：高校の校長による、学校の特徴やプログラムについて。学生データ：調査データ(家庭、宗教、自己や他者の認識、価値観、課外活動、高校でのプログラムの種類、教育上の目標と期待。語彙、読解力、計算力、科学、文章表現、社会科学、空間認知、視覚認知についてのテストも含む。 親データ：抽出された4年生と2年生から、さらに抽出し、2年生の親3367人、4年生の親3197人を調査。収入、負債、資産。高等教育の教育費の出所、親としての教育の目標、奨学金のあて、子どもの高校後の予定、結婚や出産の期待年齢、教育費の見込み、政府の奨学金制度について。世帯規模、住宅の支払い、年齢、婚姻状況、就業状況、収入、子どもにかかる費用。言語データ。英語以外の言葉の経験、現在の接触や使用状況。 教員データ：18291人の2年生と4年生の教員14103人、616の学校から。一人の学生は、1979-1980年に教えた平均4人の</p>	<p>*教員コメントデータ：4年生67,053のコメント、2年生76,560の記録。教員の意見(学生が大学に進学すると思いかどうか、人気、勉強に影響を及ぼす身体的心理的ハンデイクイックアップなど。2年のデータは、先生の性別、人種、担当教科、学生の秩序を保つために使っている時間。ふたごときょうだいデータ：サンブルの中で、双子、三つ子、その他きょうだいである場合。1348の家族のう</p>	
1					

			<p>教員によって評価されている。*</p> <p>2年生調査は、ベース調査とほぼ同じ内容。</p> <p>4年生調査は、高校卒業後の教育や仕事の経験を重視。教育については、卒業した学校の種類、授業料の工面法、学校以外の資格。労働参加、目標、軍隊経験、経済状況。認知テストは実施せず。</p> <p>年齢、性別、人種等のデータも含む。</p> <p>成績表調査ファイル：個々の学生の成績、プログラム、平均点、順位、いつどの授業をとったか、単位取得、成績を含む。</p> <p>その他、学校情報ファイル、地域労働市場ファイル、学校調査ファイル等もある。</p> <p>1984: 元2年の2回目追跡：基本的属性、教育や他のトレーニング、軍隊経験、就業経験、失業期間、仕事経験、家族について、収入、経験、意識など。また、行った学校の種類、授業準備に使う時間、学位、資格、満たした条件など。</p> <p>金銭面での情報については、授業料等、奨学金、親からの援助(きょうだいへのもも含む)、職業、職種、初任給、総収入、週労働時間、仕事満足度、家族についての情報(配偶者の仕事、教育、結婚年、子ども数)。</p> <p>1984: 元4年の2回目追跡：第1回目追跡の内容を含む。追加項目は、基本情報の更新、高等教育、就業経験、軍隊経験、家族、収入、人生の目標。また、コンピューターリテラシー、高校以降の教育での親からの金銭的援助の詳細、学校以外のトレー</p>	<p>ち、524がふたご、810がその他ののきょうだい、14が両方。</p> <p>友人データ：サンプルの中で、1,2,3人まで順位付けで、選ぶ。</p> <p>24725の学校から1122の学校がえらばれる。各校から、36の4年生、36の2年生が選ばれる(1980の説明では、18人となっている)。</p> <p>元2年生全員と元4年生のサンプルを追跡。元2年については、退学や転校していた場合、補足質問票を行う。閉鎖した学校の場合は追跡していない。</p>	<p>元2年追跡 29737,元4年追跡 11995, 2年成績データ 15941</p>
6	<p>High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort First Follow-Up (1982) [ICPSR 8297] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08297.xml</p>				
2	<p>「高校とそれ以降の生活、1980年：第1回目追跡調査(1982)」</p>				
6	<p>High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort Second Follow-up (1984) [ICPSR 8443] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08443.xml</p>	<p>ほとんどが高校を出て、高等教育機関、就職、求職している。比較可能にするため、多くの質問を同様とした。基礎データの更新。</p> <p>イベント履歴形式で、職歴、通った学校、失業、結婚などをたずねる。</p> <p>追加項目は、大学院進学意向、飲酒習慣。</p> <p>成績ファイルは、関連のある学校から集めており、履修履歴、プログラム、在学期間、専攻、資格を含む。</p> <p>(United States Department of Education. Center for Education Statistics)</p>	<p>1984: 元2年の2回目追跡。1982と同じ方法。1986春と夏以前と同じ方法。</p>	<p>1984: 元2年の2回目追跡 14825 1984: 元4年の2回目追跡: 11995 1984: 元4年の成績データ: 7776、学校運営者と教員 402。職業訓練学校カウンセラー324、ガイダンスの教員等 400、ガイダンスの長と教員 10370、1980年時点での学校数 537</p>	
3	<p>High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort Third Follow-up (1986) 「高校とそれ以降の生活、1980年：第3回目追跡調査(1986)」</p> <p>High school and beyond:</p>				<p>1986: 元4年生は 11995, 元2年生は 14825</p>

6	http://nces.ed.gov/surveys/hsb/	大学での経験が期待と行動に及ぼす影響を特定する。	ニング、失業の期間。 成績表のデータ、学校の情報も更新。 調査項目：家族背景、高校での経験、日々の活動、学問的関心、キャリア・プラン、自己についての知覚、期待、大学生活の計画、さまざまな社会的・政治的問題への態度(たとえば人種統合、性役割、性行動、犯罪コントロールなど)。 犯行為およびセックスに対する態度に關するいくつかのスケールが2波および3波で加えられた。	1970年にイリノイ大学に入學予定の1,739人の任意のサンプルに、入學前の夏に質問票郵送。 第1波 771人の男性および555人の女性。 第2波 1970秋、学校が始まった直後、。	578人の男性および455人の女性。 第3波 1971春1学年の終わりに、第1波に参加した人々に、大部分は前の2波と同じ情報。(472人の男性、397人の女性および3人の性別無記入)。854人が3波すべてに参加。
4	High School to College Transition Study (ds15) 1970年 「高校から大学への過渡期研究」	3年間の追跡調査。 以前の人生上のストレスと、適応を媒介する資源と、適応の結果の変数の間の因果関係を調べる。	第1回目：1982、1983年に行われた。 第2波：1984年。 構造化したインタビュ・スケジュールを利用して、各参加者と配偶者に対して、3時間のインタビュ。回答者とおなじ民族で厳格に訓練された人が担当した。	カリフォルニア州サンディエゴ郡の東南アジアからの難民739人。サンプルは任意に選択された中華系ベトナム人、Hmong、クメール人、ラオス人、ベトナム人の民族グループからの437世帯からの成人の参加者。25～65歳まで。	739人
6	Indochinese Health and Adaptation Research Project, 1982-1984 (ds1086) 「インドシナ人の健康と適応研究プロジェクト」	結婚生活での適合性そのほか、たとえば生殖など、結婚生活の諸側面に関する7年間の追跡調査。	標準化された心理測定を使用。(1935-1938)の時に使用された質問票：教育、職業、収入、きょうだいで何番目か、幼年期の家庭生活、身体的・精神的健康、育児、性教育と経験、結婚を成功させるためにどんな要因が重要と思うか。回答者の全般的な健康および特定の健康問題。	1935年と1938年の間に、300組の婚約中カップルが、広範囲な1連の生理学的と心理学的テストを実施。カップルは、その後、結婚、あるいは婚約破棄を研究者に通知することに同意。 フォローアップのデータは最初のコンタクト1954-44年から20年後。成人のパーソナリティの一貫性についての問題に関わりのある若い成人から中年期に設定。	1954-1955のうち、最初の600人の配偶者の512人が第2波に参加。
5	Kelly Longitudinal Study (ds431) 1935-1955 「ケリー長期研究」	結婚生活での適合性そのほか、たとえば生殖など、結婚生活の諸側面に関する7年間の追跡調査。	標準化された心理測定を使用。(1935-1938)の時に使用された質問票：教育、職業、収入、きょうだいで何番目か、幼年期の家庭生活、身体的・精神的健康、育児、性教育と経験、結婚を成功させるためにどんな要因が重要と思うか。回答者の全般的な健康および特定の健康問題。	1935年と1938年の間に、300組の婚約中カップルが、広範囲な1連の生理学的と心理学的テストを実施。カップルは、その後、結婚、あるいは婚約破棄を研究者に通知することに同意。 フォローアップのデータは最初のコンタクト1954-44年から20年後。成人のパーソナリティの一貫性についての問題に関わりのある若い成人から中年期に設定。	1954-1955のうち、最初の600人の配偶者の512人が第2波に参加。
6	「ケリー長期研究」	結婚生活での適合性そのほか、たとえば生殖など、結婚生活の諸側面に関する7年間の追跡調査。	標準化された心理測定を使用。(1935-1938)の時に使用された質問票：教育、職業、収入、きょうだいで何番目か、幼年期の家庭生活、身体的・精神的健康、育児、性教育と経験、結婚を成功させるためにどんな要因が重要と思うか。回答者の全般的な健康および特定の健康問題。	1935年と1938年の間に、300組の婚約中カップルが、広範囲な1連の生理学的と心理学的テストを実施。カップルは、その後、結婚、あるいは婚約破棄を研究者に通知することに同意。 フォローアップのデータは最初のコンタクト1954-44年から20年後。成人のパーソナリティの一貫性についての問題に関わりのある若い成人から中年期に設定。	1954-1955のうち、最初の600人の配偶者の512人が第2波に参加。
6	婚約中カップル/7年間/20年後	結婚生活での適合性そのほか、たとえば生殖など、結婚生活の諸側面に関する7年間の追跡調査。	標準化された心理測定を使用。(1935-1938)の時に使用された質問票：教育、職業、収入、きょうだいで何番目か、幼年期の家庭生活、身体的・精神的健康、育児、性教育と経験、結婚を成功させるためにどんな要因が重要と思うか。回答者の全般的な健康および特定の健康問題。	1935年と1938年の間に、300組の婚約中カップルが、広範囲な1連の生理学的と心理学的テストを実施。カップルは、その後、結婚、あるいは婚約破棄を研究者に通知することに同意。 フォローアップのデータは最初のコンタクト1954-44年から20年後。成人のパーソナリティの一貫性についての問題に関わりのある若い成人から中年期に設定。	1954-1955のうち、最初の600人の配偶者の512人が第2波に参加。

6	<p>高学歴女性の生活</p> <p>Life Styles of Educated Adult Women (ds70) 1961-1974年</p> <p>「高学歴成人女性のライフスタイル」</p> <p>コロンビア大学奨学金卒業生／卒業後10年後／その後約13年後</p>	<p>高学歴女性のグループの人生パターンに影響を及ぼしている要因を検討する追跡調査。</p> <p>主に女性の人生における仕事の役割に焦点をあてている。</p>	<p>回答者の人生における仕事の役割、教育および職業、家族と仕事の兼ね合いの問題、現在と過去の活動、現在の状況の満足度、家族背景、現在の家庭生活など。</p> <p>第2波の自記式質問票は、仕事に関連する経験、および女性がゴールを実現することができた範囲についての調査が中心。あらかじめコード化された質問とオープンエンドの両方の質問によって、雇用歴、現在の仕事のスケジュール、雇用での性別差別、教育歴、結婚ステータス、子どもの雇用などが調査された。</p>	<p>第1波 1961-63年</p> <p>第2波 1974年</p> <p>第1波は、1945年から1951年に、文系と理系、その他専門家養成大学院でコロンビア大学の奨学金を受けたすべての女子学生に調査票を郵送。</p> <p>第1波(1961年の73人、1963年の238人)の311人の女性が回答。</p> <p>第2波では、連絡がとれなかったすべての参加者に送付。有効票226。</p>	<p>第1波 311人の女性</p> <p>第2波 226人の女性</p>
7					
6	<p>思春期とその後の発達</p> <p>Lives Through Time (ds625) 1929, 1932 - 1969</p> <p>「人生の経過に関する研究」</p> <p>パークレー／子ども21ヶ月／40代</p> <p>オークランド／子ども5年生／40代／4回</p>	<p>思春期のパーソナリティ発達と変化の軌跡、その後の人生における適応との関係に焦点をあてた研究</p>	<p>パーソナリティデータにはBlock's California Q-Sort のパリエーションを用いた。使用された資料は、参加者、その教師あるいはIHDスタッフによって提示されたIHDファイルからのすべての情報を含む。各ケースのまとめ。学年、教師からのコメントと評価、IHDスタッフによる社会性またはインタビュア時の行動に関する評価、知能テストの成績、ロールシャッハとTAT、peer sociometric ratings、親とさまざまなことについての本人の報告、さまざまな問題についての態度、好き嫌いなども。Qsort 情報に加えて、成人には California Psychological Inventory も実施された。</p>	<p>参加者が40代(1968-69)の時、サンプルは再び調査された。</p> <p>パークレー・ガイダンス研究は1929年にJean Macfarlane によって始まった。研究参加者は誕生21ヶ月のこどものいる家族。5年生のこどもとその家族の、オークランド成長研究は1932年にHarold Johnson によって開始。両研究とも、通常の発達を経年で研究するもので、現在でもIHDで続けられている。</p>	<p>分析に基づく出版あり。</p> <p>"Lives Through Time" (Berkeley: Bancroft, 1971)。</p> <p>第4波は、Eichorn, Clausenらによって分析された。Present and Past in Middle Life, edited by Eichorn, Clausen, and others (New York: Academic, 1981)</p>
8					
6	<p>高学歴女性のキャリア展開</p> <p>Longitudinal Study of Career Development in College-Educated Women (ds9)</p> <p>1967-1981年</p> <p>「大卒女性のキャリア展開」</p>	<p>男性が主流の職業を選択しようとする女性と、女性が多い職業を選ぶ女性の背景、パーソナリティ、大学での経験の特徴を特定するための調査。</p>	<p>1967年に、広範囲をカバーする匿名質問票調査。200人の女性のうちの118人は、パーソナリティ変数を測定するために追加の投射テストを行なった。</p> <p>質問票の内容： (1)回答者の親の教育と職業的達成および幼年期家庭生活の特性；(2)教員との交流を</p>	<p>1963年に大学新入生とし、"ミシガン学生研究"に参加した人の中から、1967年に、200人の女子大学4年生が選ばれた(Gurin, Log# 2)。</p>	<p>1967年 200人</p> <p>1970年 152人</p> <p>1981年 117人</p>
9					

<p>ヤリア 期研究」 ミシガン大学4年生／14年 間・3回</p>		<p>含めた大学での経験と課外活動;(3)回答者の興味、態度、信念;4)回答者の将来のライフワークに関する願いおよび期待。 6つの six verbal cues による投影的パーソナリティ・テスト、そのうち4つは達成の必要と、成功の回避の動機のため。 1970年に152人に再コンタクト。 インタビュイー・質問票：大卒以上の教育と職業の経験と期待。および現在の家族状況の特徴づけ（既婚、結婚、こどもなど）。 1981年に117人のフォロアーアップ。 4種の投射テスト、キャリア願望、サポートシステム、仕事・結婚・母親としての役割、について調査。</p>	<p>2年間に3回の調査。家あるいはオファイスで個々にインタビュイー：心理的苦痛、生活の多くの様相、職場と家庭での役割について。事前に調査票も記入。インタビュイーの途中でも調査票記入：精神的・肉体的健康についてのほか、従業員、パートナー、親としてのそれぞれの役割に関する心配事や喜びについて測定。雇用、心理的・身体的健康について。</p>	<p>フォロアーアップオブションの質問票が1992年11月に郵送され、76%が回答。</p>
<p>7 0 の 関 係</p>	<p>Longitudinal Study of Dual-Earner Couples (ds1016) 「共稼ぎカップルの長期研究」 ボストン／カップル／2年間・3回</p>	<p>3つの主な社会的役割（労働者、パートナー、親）における主観的な経験が、共働きカップルのストレスと関連した精神的、身体的健康問題に寄与するところを評価する。ジエンダーの影響も調べる。</p>	<p>ボストン大都市地域の2つのコミュニティの住民リストから300組のカップル無作為抽出。 社会経済的に多様で多くの働く女性を含んでいる町。男性も女性も多くが管理や専門職。 教育のレベルも多様だが、ほとんど大卒。圧倒的に白人が多い。</p>	<p>1971-1972、1984-1985、1988-1990、1991、1994、1997年の5つの時点での345組の多世代家族のサンプル。世代コホート：祖父(後の曾祖母)世代(G1)(親(後の祖母)世代(G2))で構成されて、続いた、孫(後の親)世代(G3)、ひ孫世代(G4)。1991、1994、1997年では、4世代目が追加（女性116人、男性82人、平均20歳）。</p>
<p>7 1 的 健 康</p>	<p>Longitudinal Study of Generations and Mental Health (ds960) [ICPSR129] 1971-1997年 http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-UNCAT/00129.xml http://www.radcliffe.edu/murray/data/index.php 「世代とメンタルヘルスに関する縦断調査」</p>	<p>高齢の親と彼らの家族についての追跡パネル調査。家族の多世代間の社会的サポートの変化とそれが個人の精神的健康に及ぼす影響。精神的健康が年々ともいかに変化するか。心理的健康、世代内の変化、文化的環境、遺伝的資質が、個人の精神的健康に影響を及ぼすか。</p>	<p>人口分析、社会的変数、心理学的変数、健康および祖父(G1)の家族、親(G2);孫(G3);ひ孫(G4)。人口学的、社会的、心理的、健康、家族関係に関する項目により、世代間の絆(主観的を含む)家族内のネットワークが、各世代の年齢、健康による高齢化する世代の健康の悪化による依存、家族構成の変化によって、どう変化していくかをみる。 各家族員の精神的健康がどう変わっているのか。心理的良好状態、各世代における変化(介護の必要や他の大きな出来事)、</p>	<p>第1波：2,044人、 第2波：1,331人、 第3波：1,483人 第4波：1,734人、 第5波：1,682 第4、5、6波では116人の女性および82人の男性から成る、平均年齢20歳の第4世代(ひ孫)を追加。</p>

	全米／多世代の家族／26年・6回		文化的環境（価値観や指向伝達）、遺伝的なもの（鬱や性格の伝達）などが、個人のメンタルヘルスにどのような影響するかを調べる。		
7	生活転換期 Longitudinal Study of Transitions in Four Stages of Life (ds169) 1968-1978年	4つの過渡期にある段階におかれた成人に関する追跡研究。 ライフコースの変化の理解のために、4つの異なるタイプの変化を経験している人の、対処プロセスおよび、共通性および相違点をさぐる。	属性、社会構造的データ；既往歴；行動；価値観および目的；家族、社会ネットワークおよび社会的認識；人生の評価；心理；インタビューの感想。	(1)最初の就職／大学／結婚を予定している高校3年生； (2)親になる準備をしている若い新婚カップル； (3)子育て終了あるいは「空の巣」が予期される中年の親； (4)年配の退職間近の人。 216人の参加者は、大きな都市の同じ地理的な位置に居住し、中流および中の下の階層の代表となるように選ばれた。	男性 107人 女性 109人
2	「人生の4つのステージの過渡期に関する長期研究」 大都市／高校3年生・新婚カップル・子育て終了・退職間近の人／18か月、5、7、10年後				
7	卒業後の女性の人生	アメリカ合衆国東部の有名女子大学の1964年卒業生の追跡研究。 パーソナリティと状況が大卒女性の人生の結果に及ぼす影響を特定することが目的。	244人の大学新入生女子に Thematic Apperception Test(TATs)が実施された、より大規模な1960年の先行研究にならって行なわれている。 卒業以来 大学での経験、卒業以来の活動、将来への希望についての情報。 ストレスのあった人生の期間について集中して質問している。 1974年、76年フォローアップ：オープンエンドの最近の活動についての質問票、最近の生活の変化についての質問票および健康についての質問票など。質問票は、過去2年間の健康と生活の変化に関するあらかじめコード化されたアイテムを含む。	卒業の10年後、1974年に、1964年卒業者の第1回のフォローアップが行なわれた。 オープンエンドとプレコードの質問の両方を含んでいる質問票が、同窓会オフィスから住所を得られた初期のサンプルのすべてのメンバーに送られた (N=210) 対照として男子大学からのサンプル (N=97) に、1974年に同様のライフ・パターン・質問票を実施。 TATも別の女子大学で、1964年卒業の176人の学生から集められた。1976年、女性96名フォローアップ。	210人中122人
3	アメリカ東部女子大卒業生／12年間・3回				
7	仕事・看護	女性の医療関係者、特に看護婦およびソーシャルワーカーの仕事場およびそれ以外の場での生活上のストレスを検	これらの2つの専門グループが選ばれたのは、女性が多い仕事であることと、ストレスの高い仕事であるため。（仕事上の要求の高さと仕事でのコントロールの低さ	第1波：403人の女性（155人の看護婦および248人のソーシャルワーカー）。 1985年から3波で集められ	403人うち371人（92%）が3回のインタビューを完了
4	Longitudinal Study of the Occupational Stress and Health of Women Licensed Practical Nurses and Licensed				

<p>7 5</p>	<p>護 婦 Social Workers (ds763) 1985-86 年 「看護師とソーシャルワーカー の職業的ストレスと健康長 期研究」 女性医療関係者 / 2 年間・3 回 Marion County [Oregon] Youth Study, 1964-1979 [ICPSR 8334] http://webapp.icpsr.umich.edu/ cocoon/ICPSR-UNCAT/08334. xml オレゴン州・マリオン郡 / 高校 2 年～30 歳まで / 12 回</p>	<p>討。目標は、仕事上の役割の 質、家族の中での役割の占め る割合と質との間の関係。そ して、精神的・肉体的な健康 との間の関係を評価するこ と。</p> <p>高校時代の問題、成功、非行な どが後のキャリアにどのよう に影響するかを見る。 1964 年に、社会サービスマ とオレゴン大学の協力によっ て高校生の大規模調査がおこ なわれた。</p>	<p>によって特徴づけられている。) 調査票とインタビューではうつ病、不安感、主観的な健康、仕事の報酬および心配、身体的な症状および病気になることについて。</p> <p>成長に伴う事柄。家族との関係、学業、進学の予定、異性とのつきあい、飲酒、薬物使用。軍隊、非行、犯罪、ベトナム戦争経験。</p>	<p>た。各データ収集では、参加者が約 2 時間インタビューを受け、手渡された、また郵送された質問票の記入を依頼された。</p> <p>1964 年に高校 2 年 1277 人がベース。1967 年にグループ 1 (309) を無作為で選び、2 (303 人) は問題を起こしたことのある学生、3 (127 人) は中退記録のある人に分けられる。警察と関わった人は 4 番目のグループ (1980 年は 379 人)。</p>	<p>合計 1277 人。</p>
<p>7 6</p>	<p>家 族 生 活 ・ 家 族 形 成 ・ 就 労 Marital Instability Over the Life Course [United States]: A Six-Wave Panel Study, 1980, 1983, 1988, 1992-1994, 1997, 2000 [ICPSR 3812] http://webapp.icpsr.umich.edu/ cocoon/ICPSR-STUDY/03812. xml 全米 / 55 歳以下～ / 3 年後 / 8 年後 / 12 年後 / 17 年後 / 20 年後</p>	<p>ライフコースによって、結婚の安定がどう変化するかをたどる。 (Pennsylvania State University のグループ)</p>	<p>1980 年：女性の就労が結婚と結婚の安定に与える影響 1983 年：経済資源、妻の就業状況、子どもの有無、結婚満足感、人生の目標、健康などの変化と、結婚解消にむけての行為、解消後の対処、義親との関係、住宅の広さ、親の就業、自由時間の使い方、団体会員、保育状況、家事作業の分担などの関係を見る。 1988 年：就業、経済、健康の変化が結婚関係に与える影響をみる。(離婚と再婚、高齢の親や要扶養の子どもへのケアについてやす労力と資源、資産価値、加齢の認識、精神的健康、既往歴)。 1992 年：就業、経済、健康の変化。退職、家族構成、老親と子どもの世話を同時にすることについての調査。成人した子どももデータの追加で、親からみた親子関係の質、意識との比較、子どもとのときの経験と大人への移行の関連を調べる。*</p>	<p>アメリカ大陸の全州に在住する結婚している個人が母集団。1980 年の時点で、夫婦の両方が 55 歳以下。 1980 年に RRD によって、世帯をサンプリングし、夫婦のどちらかを調査するかを無作為で決定。 1992 年と 1994 年では、1980 年の時点でその世帯に住んでおり、1992 年あるいは 1997 年に 19 歳に達していた子どもにも調査した。 *1997 年：成長した子どものサンプルを再度とる。1992 年に調査した子どもも再調査。結婚の質と安定性の関係と、それがその後の結婚の質にどう関係するのかを分析。</p>	<p>20 回の電話で 17% と インタクトできず。コ ンタクトできた人の 78% が調査を完了。最 終的には 2033 人。 再回収率は、78%, 84%, 89%, 90%。 子どもについては、親 の 87% が、子どもの連 絡先を報告し、そのうち 88% が調査に参加した (77%)。対象となる 子どもが 2 人以上の場 合、無作為で選んだが、 だめだった場合は、もう 一方の子どものもコン タクトした。5% が抽 出された子どもでもない 回答者が入った。1992 年では、子ども 471 人</p>